

西側アプローチの設え

■計画のポイント

①広場へと続く階段をメインアプローチの動線とする

→ 現庁舎の特徴である「ピロティを通り広場へアクセスする」空間のつながりを東棟で踏襲するように、西棟でも同様のアプローチをメインの動線として、新しく整備する。広場へのメイン動線には、印象的な大階段を設えることで、区民を迎え入れる。

②区民を迎え入れる場として、開放的な空間とする

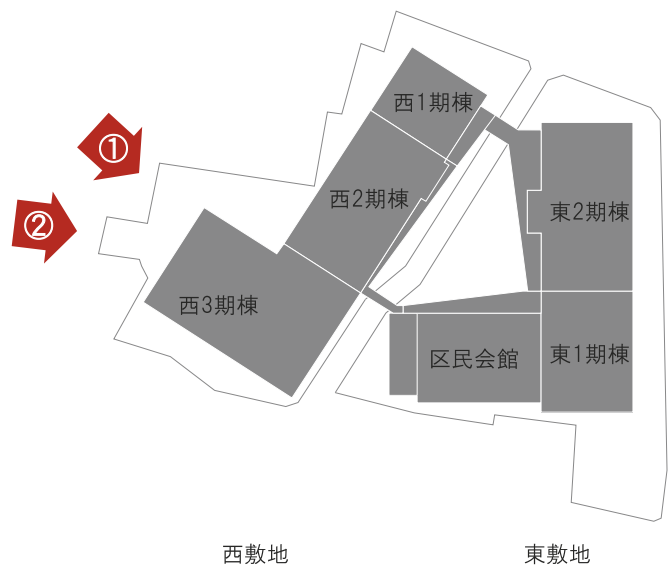
→ 西3期棟西側の地下1階・1階部分の壁面をセットバックすることで歩行空間が広がり、歩きやすい空間を確保する。

③広場へ分かりやすく誘導

→ 西3期棟西側の地下1階・1階部分の壁面をセットバックに加え、広場へ続く大階段の始まりを建物より前方に伸ばすことにより、大階段への視認性を上げ、広場へのアクセス動線を分かりやすく設える。

④緩やかにのぼる

→ 階段の始まりを建物より前方に伸ばすことで、階段自体のストロークが長くなり、緩やかな、区民に優しい階段とする。



模型写真アングルキープラン



西側アプローチの設え



地下1階平面図



1階平面図